

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	金沢工業大学
設置者名	学校法人金沢工業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による 授業科目の単位数				省令で定める 基準単位数	配置 困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
情報デザイン学部	経営情報学科	夜・通信	16	0	2	18	13	無し
	環境デザイン創成学科	夜・通信			2	18	13	無し
メディア情報学部	メディア情報学科	夜・通信	16	0	2	18	13	無し
	心理情報デザイン学科	夜・通信			2	18	13	無し
情報理工学部	情報工学科	夜・通信	16	0	4	20	13	無し
	知能情報システム学科	夜・通信			4	20	13	無し
	ロボティクス学科	夜・通信			2	18	13	無し
バイオ・化学部	環境・応用化学科	夜・通信	16	0	4	20	13	無し
	生命・応用バイオ学科	夜・通信			4	20	13	無し
工学部	機械工学科	夜・通信	16	0	2	18	13	無し
	先進機械システム工学科	夜・通信			2	18	13	無し
	航空宇宙工学科	夜・通信			6	22	13	無し
	電気エネルギーシステム工学科	夜・通信			2	18	13	無し
	電子情報システム工学科	夜・通信			2	18	13	無し
	環境土木工学科	夜・通信			2	18	13	無し
建築学部	建築学科	夜・通信	16	0	8	24	13	無し
	建築デザイン学科	夜・通信			8	24	13	無し
(備考) 新課程 (2025 年度以降入学生)								

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	機械工学科	夜・通信	16	0	6	22	13	無し
	航空宇宙工学科	夜・通信			6	22	13	無し
	ロボティクス学科	夜・通信			2	18	13	無し
	電気電子工学科	夜・通信			4	20	13	無し
	情報工学科	夜・通信			4	20	13	無し
	環境土木工学科	夜・通信			6	22	13	無し
情報フロンティア学部	メディア情報学科	夜・通信	16	0	3	19	13	無し
	経営情報学科	夜・通信			6	22	13	無し
	心理科学科	夜・通信			2	18	13	無し
建築学部	建築学科	夜・通信	16	0	6	22	13	無し
バイオ・化学部	環境・応用化学科	夜・通信	16	0	6	22	13	無し
	生命・応用バイオ学科	夜・通信			6	22	13	無し
(備考) 旧課程（2024 年度以前入学生）								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.kanazawa-it.ac.jp/kyoiku/jitsumukyoin.html>

(「実務経験のある教員等による授業科目の一覧表」を記載、一覧表の科目名をクリックすることで、シラバスを表示)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 (なし)

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	金沢工業大学
設置者名	学校法人金沢工業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/riji-list.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 代表取締役会長	4年	イノベーション ・研究支援担当
非常勤	有限会社 取締役社長	4年	学生・卒業生 支援担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	金沢工業大学
設置者名	学校法人金沢工業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

① シラバスの記載内容

本学のシラバスは、大分類として「授業科目の基本情報」「授業科目の概要・目標」「成績評価の方法と達成度」「各授業回の実施方法」の4項目から構成されている。各項目の記載内容は以下のとおりである。

A) 授業科目の基本情報

授業科目区分、科目名、単位数、開講期、履修方法、担当教員名、内線番号、電子メールアドレス、オフィスアワー等を記載する。

B) 授業科目の概要・目標

授業のキーワード、学習教育目標、授業の概要と学習上の助言、教科書・参考書、履修に必要な予備知識、学生が達成すべき行動目標を記載する。

C) 成績評価の方法と達成度

評価方法、評価指標とその割合、評価の実施方法および注意点、さらに「理想的な達成レベル」と「標準的な達成レベル」を記載する。

具体的には、本学で開講されるすべての授業科目について、評価方法を試験・レポート等の7区分に分類し、それぞれの配点を明示している。加えて、区分ごとに知識・思考等の5項目からなる評価指標を設定し、それぞれの評価割合を示している。

D) 各授業回の実施方法

各回の学習内容、授業の運営方法、学習課題、予習・復習時間を記載する。

具体的には、各回の授業内容に加え、講義・演習・実験・実習・討論・発表・フィールドワーク等の授業形態、課題や予習・復習の内容、授業外学習時間の目安、持参物や提出物等について明記している。

また、本学では、学習をより能動的なものとするため、シラバスを基盤とした「eシラバス」を別途運用している。eシラバスでは、授業で使用した資料や課題に関する情報へのリンク、各回の学習に関連するeラーニング教材、課外教育プログラム、関連する卒業生(OB・OG)の紹介動画へのリンク等が提供されている。さらに、レポート提出機能やポートフォリオへのリンクも備えており、これらはPCやスマートフォン、タブレットから操作・閲覧が可能である。

② シラバス作成のプロセスと作成・公表時期

ステップ1【12月～1月・2月】：シラバスの作成

次年度に開講する科目について、担当教員がシラバスを作成する。複数クラスで異なる教員が担当する場合や、複数教員による共同担当科目の場合は、教員間で十分に協議・調整を行い、統一したシラバスを作成する。

ステップ2【1月・2月～3月上旬】：第三者点検の実施

各学科の学事運営を担う主任教授が、学科内の全科目のシラバスを俯瞰的に点検するとともに、科目間の整合性を確認し、必要に応じて担当教員に修正を依頼する。

ステップ3【4月1日】：公表 シラバスは、学生に対しては各学期開始の約2か月前に公開し、社会に対しては毎年4月1日に大学のホームページ上で公表する。なお、過去のシラバスについても通年で公開している。 ステップ4：改善 授業アンケート、成績分布、FD活動、IR情報等を踏まえて授業改善を行い、その結果を次年度のシラバスに反映させる。	
授業計画書の公表方法	https://europa.kanazawa-it.ac.jp/opsyllabus/kitos0100/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学生に対して、授業初回において、当該科目の成績評価に関する内容（達成すべき行動目標、達成度評価の方法および注意点、理想的な達成レベル等）を説明するとともに、これらをシラバスに具体的に記載し提示している。その内容は以下のとおりである。 ① 達成すべき行動目標 各科目において、学生が達成すべき行動目標を5～6項目設定し、「〇〇ができる」という表現で統一してシラバスに記載している。これにより、学生が当該科目において何を達成すべきかを具体的に示している。 ② 達成度評価 達成度評価は、「評価方法」と「評価指標・評価割合」を表形式で示している。具体的には、表の横方向（行）に評価方法として「試験」「小テスト」「レポート」「発表」「作品」「ポートフォリオ」「その他」の7区分を設け、それぞれの配点を明示している。一方、表の縦方向（列）には評価指標として、「知識を取り込む力」「思考・推論・創造する力」「コラボレーションとリーダーシップ」「発表・表現・伝達する力」「学習に取り組む姿勢・意欲」の5項目を設定し、各評価方法に対する評価割合を示している。 ③ 評価の実施方法と注意点 評価の具体的な実施方法として、①で示した「達成すべき行動目標」と②で示した評価方法（7区分）との対応関係を明示するとともに、評価実施時の注意点を提示している。すなわち、各行動目標について、どのような方法で評価するのかを具体的に示し、学生に分かりやすく提示している。 ④ 到達目標と達成レベルの基準 到達目標および達成レベルの基準を明確にするため、「理想的な達成レベル」と「標準的な達成レベル」を、それぞれ具体的な文章で示している。 なお、本学では各授業回において学生が自己点検を行う時間を設けている。また、教員による成績評価後には、その結果を一旦学生に開示し、異議申し立てを行う期間を設ける制度を運用している。 さらに、卒業研究に相当する4年次通年必修科目「プロジェクトデザインⅢ」ならびに、2年次必修科目「プロジェクトデザインⅡ」および「プロジェクトデザイン実践」の3科目では、学修成果を社会に広く発信する「公開発表審査会」等を毎年開催している。これらには企業関係者、保護者、高校教員等が参加しており、発表内容も成績評価の一部として位置付けられている。	

このように本学では、成績評価の基準および方法をあらかじめ詳細に設定し、シラバスに明示するとともに学生へ説明し、さらに社会に公表した上で、適切に成績評価を行い、単位を授与している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ① 成績評価およびGPAの算出方法 本学の成績評価は、90%以上を「S(秀)」、80%以上90%未満を「A(優)」、70%以上80%未満を「B(良)」、60%以上70%未満を「C(可)」とし、以上を単位認定としている。60%未満は「D(成績不良)」と評価され、単位は認定されない。 さらに、これらの成績評価には、Sを4ポイント、Aを3ポイント、Bを2ポイント、Cを1ポイント、Dを0ポイントとする評価ポイントを付与し、GPAを算出している。算出式は以下のとおりである。 【GPAポイント = (評価ポイント × 単位数) の総和 ÷ 履修科目の総単位数】 なお、計算結果は小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位までで表示している。これらの算出方法は、大学のホームページにおいて広く公表している。 GPAは、個々の科目の成績評価に基づき、履修したすべての科目における1単位当たりの平均成績を示す指標である。これにより、各学期終了時点における学生一人ひとりの学修状況を把握することができる。なお、GPAは全履修科目を対象として算出されるため、学生には、自らの履修計画に基づいて履修許可を受けた科目については確実に履修し、単位修得に努める必要があることを周知している。 ② 実施状況 GPAポイントは、修学指導の基礎資料として活用されるだけでなく、就職指導や大学院進学指導(学内選抜試験への出願資格)においても重要な資料として用いられている。また、GPAには、入学時からの累積を示す「累積GPAポイント」、学期ごとに算出される「単学期GPAポイント」、および専門科目に限定した「専門科目GPAポイント」があり、学生は「成績照会システム」を通じてこれらを随時確認できる。さらに、保護者に対しては、全国47都道府県ごとに開催される保護者会において、GPAポイントを基に各学生の修学状況を説明している。 成績の分布状況については、縦軸にGPAポイント、横軸に修得単位数を取った散布図を作成している。この散布図は学科ごとに作成され、学生個々の位置付けをGPAポイントと修得単位数の両面から把握できるようになっている。これにより、修学指導および科目運営の改善に活用している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_guide/2026/chapter_3/list_3/page_3.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ① 卒業の認定に関する方針の内容 本学の建学綱領に掲げる「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学共同」の理念に基づき「自ら考え行動する技術者」となるために、豊かな教養と社会で活躍できる以下の能力を身につけ、卒業要件を満たした者に学位を授与する。	

- ・専門分野の知識を修得し、それらを知恵に転換できる能力
- ・地域社会や産業界が持つ多様な問題を発見し、それらを解決できる能力
- ・世代・分野・文化を超えた価値観を共有し、イノベーションを実現できる能力

② 実施状況

「卒業の認定に関する方針」の適切な実施に向けたカリキュラムを編成し、その全体像を「CAMPUS GUIDE」として学生に配布すると共に、ホームページで広く社会に公表している。「CAMPUS GUIDE」には、「卒業の認定に関する方針」を学科ごとに具体化した「学科の学習教育目標」と、この目標を達成するための科目配置・科目間の関係性を表した「カリキュラムフロー」を示しており、更に、関係性の高い科目を科目群として括り、その科目群で身に付ける能力を示している。

このように、科目ごとの教育目標・達成度は、「建学の理念」→「卒業の認定に関する方針」→「学科の学習教育目標」→「科目群の学習教育目標」と順に整合性を保ちつつ具体化・細分化されたものである。

したがって、科目ごとの成績評価を積み上げ卒業要件を満たしていれば、「卒業の認定に関する方針」を満足する能力を備えていることになる。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.kanazawa-it.ac.jp/gakubu_daigakuin/policy/gakubu.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	金沢工業大学
設置者名	学校法人金沢工業大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/gakuenjokyo.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/gakuenjokyo.html
財産目録	https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/gakuenjokyo.html
事業報告書	https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/gakuenjokyo.html
監事による監査報告(書)	https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/gakuenjokyo.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/zikotenken-result.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/r4hyoukahoukokusyo.pdf

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 全学部共通
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.kanazawa-it.ac.jp/kyoiku/mokuhyo/index.html)

(概要) 建学の綱領に向け本学は、科学・工学教育を通して国際社会における日本人としての誇りと使命感を養い、さらに次世代の技術革新を担うとともに、円滑な社会生活を営むための価値観、倫理観、そして科学技術の進展と国家の安定を明確に捉えた歴史観を併せ持った技術者を育成することを教育理念とし、「自ら考え行動する創造的探究・実践人材」を育成する。 また、「チームであいまいな問題に取り組み、解決すべき課題を明確にして、制約条件のもとで解決策を創出し、実施する」教育プログラムをカリキュラム全体で実施している。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/gakubu_daigakuin/policy/gakubu.html)
(概要) 本学の建学綱領に掲げる「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学協同」の理念に基づき「自ら考え行動する創造的探究・実践人材」となるために、豊かな教養と社会で活躍できる以下の能力を身につけ、卒業要件を満たした者に学位を授与する。 ①専門分野の知識を修得し、それらを知恵に転換できる能力 ②地域社会や産業界が持つ多様な問題を発見し、それらを解決できる能力 ③世代・分野・文化を超えた価値観を共有し、イノベーションを実現できる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/gakubu_daigakuin/policy/gakubu.html)
(概要) 学位授与方針に掲げる能力を身につけるための教育課程（修学基礎教育課程、英語教育課程、数理・データサイエンス・AI 教育課程、プロジェクトデザイン基礎教育課程、専門教育課程、国際教養理工学課程）を以下のとおり編成する。 ・歴史観、世界観、倫理観ならびに使命感を包含した人間力を身につけるとともに、生涯にわたり学修する姿勢を育成するための修学基礎教育課程 ・グローバルに活躍するためのコミュニケーション能力を修得するための英語教育課程 ・専門分野において求められる数理基礎能力を修得するための数理・データサイエンス・AI 教育課程 ・社会で求められるイノベーションを効果的に実践する手法を学ぶためのプロジェクトデザイン基礎教育課程 ・専門分野における基礎理論、および高度な専門知識と技術を修得するための専門教育課程 ・グローバルかつ多角的な視点で物事を捉え、人々から共感される新しい価値や技術を創造する能力を修得するための国際教養理工学課程 各教育課程で開講される諸科目の中でも、特に幅広い教養と国際的視野を身に付けることを意図した科目は、科目区分「リベラルアーツ系科目」として開講する。なお、国際教養理工学課程の授業科目はすべて「リベラルアーツ系科目」として開講される。 これらの教育課程のもとで以下のように、人文・社会科学から自然科学までの教養基礎を文理横断的に学ぶことに加え、異分野の専門科目や自分分野の専門科目を深く学ぶ教育を実施する。

- ・チーム学習やアクティブラーニングにより自ら学び主体的に活動する能力を育成するための初年次教育
 - ・修得した知識を知恵へ転換し、問題発見・問題解決能力を育成するためのプロジェクトデザイン教育
 - ・技術者を取巻く社会環境を理解し、技術者に求められる素養・能力を育成するためのキャリア教育
 - ・Conceive（考える）、Design（設計する）、Implement（実行する）、Operate（運用する）を重視して国際的に通用する創造する力を身につけるための総合教育
 - ・イノベーションを可能にする世代・分野・文化を超えた共創教育
- これらの教育実践を通して得られる学修成果は、多面的な評価方法（試験、クイズ・小テスト、レポート、成果発表、作品、ポートフォリオ等）に基づき総合的に評価される。

学科及び課程の教育課程の編成及び実施に関する方針は、大学の教育課程の編成及び実施に関する方針に従い別途定める。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/gakubu_daigakuin/policy/gakubu.html）

（概要）

金沢工業大学は、建学の綱領に掲げる「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学協同」の理念に基づき「自ら考え行動する創造的探究・実践人材」の育成を教育目標としています。

本学は、自らがもつ資質や多様な能力を向上させようとする意欲と共に、もの・コトづくりに対する興味や科学技術への探究心をもち、さらには、金沢工業大学の行動規範である KIT-IDEALS に共感し、自らの自己実現を目指す者の入学を求めています。

【求める学生像】

○本学で学ぶ目的や意義が明確な者

- 1) 進学目的が明確で、新しい価値の創造に知的好奇心をもつ者
- 2) 情報、理工学の知識を役立て、幅広く社会で活躍する科学技術者を目指す者
- 3) 科学技術とその応用分野に関心をもち、もの・コトづくりに積極的にチャレンジする
- 4) 幅広い知識と汎用的技術を文理横断的に身につけ、社会を改善していく意欲のある者

○本学の教育システムを積極的に活用できる者

- 5) 本学の教育システムの特徴や仕組みを理解し、効果的に活用することで自らの能力を高める意欲のある者
- 6) 他者と積極的に関わり、チームで協力して学修することに興味のある者

○人文・社会科学、科学技術を学び応用するために求められる基礎学力を身につけている者

- 7) 本学の修学のために必要な基礎学力を身につけている者
- 8) 社会に関心をもち、多様な情報から自らの意見をまとめて表現するための素養を身につけている者

○社会における課題の発見とそれを解決するための学修に積極的に取り組む姿勢のある者

- 9) 人文・社会科学、自然科学などの様々な分野について、これまでに獲得した知識、技能等を総合的に活用し、課題解決に取り組む意欲のある者

【入学までに身につけておくべき能力】

高等学校卒業までに、基礎科学、情報基礎及び理工学を学ぶうえで基礎となる教科（数学、理科、英語、国語、地理歴史、公民、情報等）を幅広く学習していることが必要です。

【総合型選抜（女子奨学生）】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等学校における学業成績や学習成果を重視するとともに、理解力評価テスト（数学または英語の基礎的能力）、面談、調査書（数学・理科・外国語・国語・全体の学習成績の状況を点数化）及びエントリーシート等を通じて、学力の３要素を総合的に評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【総合型選抜（Ｕターン型奨学生）】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者や出身地域社会の発展に貢献することを目指す者を求めます。

高等学校における学業成績や学習成果を重視するとともに、理解力評価テスト（数学または英語の基礎的能力）、面談、調査書（数学・理科・外国語・国語・全体の学習成績の状況を点数化）及びエントリーシート等を通じて、学力の３要素を総合的に評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【総合型選抜（専願型）】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等学校における学業成績や学習成果を重視するとともに、調査書をもとに、学力の３要素を踏まえ、表現力やコミュニケーション力、多様な人々と主体的に協働して学ぶ姿勢を図り、エントリーシートでは、これらの力を総合的に評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【総合型選抜（課外活動型）】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者や課外活動等での取り組みに積極的に参加した者を求めます。

高等学校における学業成績や学習成果を重視し、面談、エントリーシート、調査書をもとに、学力の３要素を踏まえ、表現力やコミュニケーション力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ姿勢について評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【専門高校特別試験（指定校）】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等学校における学業成績や学習成果を重視し、学校長の推薦を必要とします。調査書、学校長推薦書、志望理由書、学習活動計画書をもとに、高等学校における専門教育の学習状況を把握し、科学技術分野への関心や、もの・コトづくりへの積極的なチャレンジ精神、意欲及び学力の３要素を踏まえ、表現力やコミュニケーション力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ姿勢について評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【専門高校特別試験（公募）】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする

する意欲のある者を求めます。

高等学校における学業成績や学習成果を重視し、学校長の推薦を必要とします。面接、調査書、学校長推薦書、志望理由書をもとに、高等学校における専門教育の学習状況を把握し、科学技術分野への関心や、もの・コトづくりへの積極的なチャレンジ精神、意欲及び学力の3要素を踏まえ、表現力やコミュニケーション力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ姿勢について評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【推薦試験（指定校）】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等学校における学業成績や学習成果を重視し、学校長の推薦を必要とします。調査書、学校長推薦書、志望理由書、学習活動計画書をもとに、学力の3要素を踏まえ、表現力やコミュニケーション力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ姿勢について評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【推薦試験（公募）】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等学校における学業成績や学習成果を重視し、学校長の推薦を必要とします。面接、調査書、学校長推薦書、志望理由書をもとに、学力の3要素を踏まえ、表現力やコミュニケーション力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ姿勢について評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【自己推薦選抜】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等学校における学業成績や学習成果を重視するとともに、基礎学力試験（数学及び英語の基礎的能力）、調査書（数学・理科・外国語・国語・全体の学習成績の状況を点数化）、自己成長シート（学内での活動内容、学外での活動内容）等を通じて、学力の3要素を総合的に評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【一般試験前期】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等学校で学習する知識・技能を重視し、高等学校までの学習の達成度を測るとともに、本学の教育を受けるための能力と適性、科学技術を学び応用するために求められる基礎学力について確認します。また、学力の3要素を踏まえ、調査書等に基づき、学習意欲など評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【一般試験前期・共通テストプラス】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等学校で学習する知識・技能を重視し、高等学校までの学習の達成度を測るとともに、本学の教育を受けるための能力と適性、科学技術を学び応用するために求められる基礎学力について、一般試験前期と大学入学共通テストにおける教科・科目により評価します。また、学力の3要素を踏まえ、調査書等に基づき、学習意欲など評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【一般試験中期】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等学校で学習する知識・技能を重視し、高等学校までの学習の達成度を測るとともに、本学の教育を受けるための能力と適性、科学技術を学び応用するために求められる基礎学力について、記述式問題により「理解する力」、「論理的思考力」、「正確な表現力」、に重点を置き確認します。

また、学力の3要素を踏まえ、調査書等に基づき、学習意欲など評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【一般試験中期プラス】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等学校で学習する知識・技能を重視し、高等学校までの学習の達成度を測るとともに、本学の教育を受けるための能力と適性、科学技術を学び応用するために求められる基礎学力について、記述式問題により「理解する力」、「論理的思考力」、「正確な表現力」を重視して評価します。加えて、国語（小論文）により、総合的な学力を評価します。

また、学力の3要素を踏まえ、調査書等に基づき、学習意欲など評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【大学入学共通テスト利用A】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等学校で学習する知識・技能を重視し、高等学校までの学習の達成度を測るとともに、本学の教育を受けるための能力と適性、科学技術を学び応用するために求められる基礎学力について、大学入学共通テストにおける本学が利用する教科・科目を評価します。

また、学力の3要素を踏まえ、調査書等に基づき、学習意欲など評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【大学入学共通テスト利用B】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等学校で学習する知識・技能を重視し、高等学校までの学習の達成度を測るとともに、本学の教育を受けるための能力と適性、科学技術を学び応用するために求められる基礎学力について、大学入学共通テストにおける本学が利用する教科・科目を評価します。

また、学力の3要素を踏まえ、調査書等に基づき、学習意欲など評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

【併設校学校長推薦試験】

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

高等専門学校における学業成績や学習成果を重視し、学校長の推薦を必要とします。面接、調査書、学校長推薦書、志望理由書、高等専門学校における学習歴及び活動実績をもとに、学力の3要素を踏まえ、表現力やコミュニケーション力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ姿勢について評価します。これらを基に多面的な評価を行います。

本学の教育システムを理解し、効果的に活用することで、自らの能力を高めようとする意欲のある者を求めます。

公表方法 : https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ir.html

a. 教員数（本務者）	
-------------	--

b. 教員数（兼務者）		
学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	122 人	122 人

c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

本学では、次に示す 4 種類の FD を実施し、本学の取り組んでいる様々な教育の成果や問題点を共有し改善を図っている。

授業担当者間での授業計画・運用の調整をはじめ、学科・課程内の教育において、教育要領、指導方法等の FD を実施している。参加状況は課程・学科に所属する全教員が出席している。

(備考) 収容定員 (c) = R7 以後 1・2 年の収容定員 + R6 以前 3・4 年収容定員

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	836 人 (100%)	180 人 (21.5 %)	642 人 (76.8 %)	14 人 (1.7 %)
情報フロンティア学部	265 人 (100%)	27 人 (10.2 %)	229 人 (86.4 %)	9 人 (3.4 %)
建築学部	201 人 (100%)	29 人 (14.4 %)	168 人 (83.6 %)	4 人 (2.0 %)
バイオ・化学部	134 人 (100%)	26 人 (19.4 %)	106 人 (79.1 %)	2 人 (1.5 %)
合計	1,436 人 (100%)	262 人 (18.3 %)	1,145 人 (79.7 %)	29 人 (2.0 %)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 大林組、川崎重工業、きんでん、小松製作所、サイバーエージェント、清水建設、積水ハウス、東海旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東日本旅客鉄道、大和ハウス工業、東芝、TOPPAN、日産自動車、日本電気、三菱電機、YKK				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	913 人 (100%)	741 人 (81.1%)	75 人 (8.2%)	97 人 (10.6%)	0 人
情報フロンティア学部	282 人 (100%)	237 人 (84.0%)	21 人 (7.4%)	24 人 (8.5%)	0 人
建築学部	233 人 (100%)	189 人 (81.1%)	17 人 (7.3%)	27 人 (11.6%)	0 人
バイオ・化学部	158 人 (100%)	127 人 (80.4%)	16 人 (10.1%)	15 人 (9.5%)	0 人
合計	1,586 人 (100%)	1,294 人 (81.6%)	129 人 (8.1%)	163 人 (10.3%)	0 人
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

年間の授業計画については、学科ごとの教育目標、入学から卒業までの授業科目を、各学年・各学期への配置状況と、科目間の関連を表すカリキュラムフローを示している。加えて、関係性の高い科目を科目群として括り「科目群の学習教育目標」として身に付ける能力を示している。これらは、冊子「CAMPUS GUIDE」で学生に入学時に配布すると共に、ホームページにて広く社会に公開している。

また一つ一つの授業科目の運営計画については、シラバスに学習内容・目的・目標・達成度の基準・成績評価の方法等について、具体的に示し公開している。特に、各回の授業の内容については、詳細に提示している。更に、予習・復習をはじめとした授業外の学習を充実させるために「eシラバス」を運用している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
学部名	学科名	卒業又は修了に 必要となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
情報デザイン学部	共通	124 単位	⑦・無	24 単位
メディア情報学部		124 単位	⑦・無	24 単位
情報理工学部		124 単位	⑦・無	24 単位
バイオ・化学部		124 単位	⑦・無	24 単位
工学部		124 単位	⑦・無	24 単位
情報フロンティア学部		124 単位	⑦・無	24 単位
建築学部		124 単位	⑦・無	24 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.kanazawa-it.ac.jp/shisetsu/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名		学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）			
情報デザイン学部 メディア情報学部		共通	1,315,000 円	200,000 円	0 円	休学中在籍料 1 学期 30,000 円			
情報理工学部 バイオ・化学部 工学部 情報フロンティア学部 建築学部		共通	1,515,000 円						
8 学期を超えて在学	情報デザイン学部 メディア情報学部		共通				657,500 円	0 円	0 円
	情報理工学部 バイオ・化学部 工学部 情報フロンティア学部 建築学部		共通				757,500 円	0 円	0 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 大学事務局において履修や成績、大学生活に必要な手続きと、これらに関する様々な質問や相談に対応している。また、数学・物理・化学等の数理に関する学習指導・学習支援を行う「数理工教育研究センター」、英語の学習指導・学習支援を行う「基礎英語教育センター」、プログラミング・AI・IoTをはじめとした情報技術の学習指導・学習支援を行う「情報処理サービスセンター」、問題発見解決型のプロジェクト活動を支援する「プロジェクト教育センター」、資格取得を推進する「自己開発センター」、専門基礎科目の「学習支援デスク」、論文・レポート等の添削指導を行う「ライティングセンター」を運営しており、それぞれ個人指導・グループ指導を行う機能を有し、学生の修学を最大限支援している。 https://www.kanazawa-it.ac.jp/shisetsu/shien.html
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) キャリア教育として「自分史の作成」と「産業界の構造と業界・職種」に関する授業を通して、学生一人一人が将来像を描き、それに向けた修学計画を立案している。学年進行に伴い、進路先を具体化するために、本学独自の企業データベースを活用すると共に、インターンシップに参加し、就職先の業種・職種を明確にしている。また、学生の進路支援と就職先の開拓を行う「進路開発センター」にて、キャリアカウンセラーが学生の個人相談に応じており、進路選択を強力にバックアップしている。 https://www.kanazawa-it.ac.jp/shushoku/index.html
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 学内に設置されている内科の医療機関である「扇が丘診療所」において、腹痛・頭痛等への対応の他、就職活動等に必要な健康診断書の発行やインフルエンザ等の予防接種も実施している。 https://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_guide/2025/chapter_5/list_1/page_4.html 体育館の一角にスポーツ考房を開設し、多彩なトレーニングマシンを完備しており、専門スタッフのアドバイスを受けながら無理なく健康増進、体力向上が可能な設備が整っている。 https://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_guide/2025/chapter_5/list_1/page_4.html カウンセリングセンターにおいて、生活面の相談や悩みごと、心理的な悩みごとなどの相談に対応するため、常勤のカウンセラーとして、専門家（いずれも公認心理師及び臨床心理士の有資格者）11名が勤務している。 https://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_guide/2025/chapter_5/list_1/page_3.html

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ir.html

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F117310105460
学校名（〇〇大学 等）	金沢工業大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人金沢工業大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1,464人（839）人	1,442人（821）人	1,510人（873）人
内 訳	第Ⅰ区分	234人	219人	
	（うち多子世帯）	（ 53人）	（ 44人）	
	第Ⅱ区分	165人	146人	
	（うち多子世帯）	（ 28人）	（ 26人）	
	第Ⅲ区分	100人	99人	
	（うち多子世帯）	（ 28人）	（ 18人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	235人	245人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	146人	161人	
	区分外（多子世帯）	584人	572人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（ 0）人
合計（年間）				1,513人（873）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	53人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	9人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	16人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	20人	人	人
計	68人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	一人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	13人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	251人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	62人	人	人
計	266人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。